

Japan-YWP、Water Loop 共催ワークショップ

「水の未来はどこへ向かうか～2050年に求める世界～」開催報告

Japan-YWP 副代表 籠田 大介

<イベント概要>

開催：Japan National Young Water Professionals (Japan-YWP)、Water Loop 共催

日時：2019年2月23日(土) 13:30～17:00

場所：京都市国際交流会館 3階 研修室

プログラム：

司会 副代表 籠田 大介 (埼玉県企業局)

グループディスカッション進行 平野実晴 (神戸大学)、横井貴大 (京都市上下水道局)

13:30～13:50	開会挨拶、Japan-YWP/Water Loop 活動紹介	
13:50～13:55	アイスブレイク (Mentimeter によるリアルタイムアンケート)	
13:55～14:15	スピーチ	Japan-YWP 代表 浅田 安廣 (国立保健医療科学院)
14:15～14:25	クイズ (Mentimeter によるリアルタイムアンケート)	
14:25～14:55	グループ・ディスカッション① 2050年の悲観的シナリオ 「水に関わる一人として、どういった課題に不安を感じますか？」	
14:55～15:15	休憩	
15:15～16:15	グループ・ディスカッション② 2050年の理想像 「どのようなアイデア・新技術・ビジネスモデルなどに将来があると思いますか？(上下水道に限らず)」等	
16:15～17:00	振り返り、両代表よりコメント	
17:00	閉会	

<開催報告>

2月23日(土)、関西で活動する水関連若手ネットワーク Water Loop との共催により、京都市でワークショップを開催しましたので、その様子をご報告します。ワークショップのタイトルにある「2050年」は、現在の YWP 世代が退職する直前の世界です。我々がこれから30年かけて目指す「水」の理想像を自由な発想で想像すべく、本ワークショップを企画しました。

ワークショップの導入では、浅田代表より「2050年の社会はどうなっているか」・「インフラの将来像」という視点からスピーチを頂きました。インフラの普及期を過ぎ、人口減社会に突入する日本がどのように対応していくか、国際的に注目を集めています。これからは、都市や町村の規模に応じて、それぞれの役割、インフラの集中 or 分散や管理方法等を選択していく必要があるとのことでした。



Mentimeter を活用したアンケート



グループディスカッションの様子

グループディスカッションは、将来起こりうる問題や、その解決策・アイデア等をスマホアプリ Mentimeter によりリアルタイムで参加者が共有し、グループで模造紙にまとめて発表しました。挙げたアイデアの一部をご紹介します。

- ・建物や住宅内での水循環
- ・ニューアースの開発、移住
- ・大規模災害に適應したインフラ整備（耐震化、地下埋設、空間利用）
- ・人工雨雲による雨水利用
- ・配管内を監視・修繕するロボット
- ・レアメタル利用
- ・人材育成・確保のために感情を持った AI による保育
- ・教育機関の役割見直し。有望な人材を産官学へ輩出
- ・政府再建。縦割り社会崩す。書類づくり減らす。インフラ予算増。
- ・国民意識から変える。コンセッション、移民等による事業運営の課題解決
- ・水道メーターからアプリへ
- ・日本上下水道事業団の設立
- ・水をクラウドで購入
- ・ビストロ下水道から発展⇒汚泥を食べる
- ・社内でマッチングアプリ、保育所→人口増加
- ・ドローンによる水の運搬

多様なバックグラウンドを持つ水の専門家達が課題と向き合い、楽しみながら自由に議論することで、思いもしなかったアイデアが多数生まれました。今回出されたアイデアを、2050年に向けてどのようにカタチにしていくか考えなければならぬと感じました。



集合写真